

救急・応急処置(AED心肺蘇生法)

1 肩をたたきながら声をかける



肩をたたきながら耳元で呼びかけ、意識の有無を確認めます。
 ※頭や首に怪我が疑われる場合はゆすったり、動かさないようにしましょう。

2 反応がなかったら、大声で助けを求め 119番通報とAED搬送を依頼



意識がなければ周囲の人に、「誰か来てください！」
 「119番通報してください」
 その場所にAEDがあれば「AED持ってきてください」と大きな声で応急手当の協力を求めます

3 呼吸を確認する



死戦期呼吸というものがあり、しゃくりあげるようなゆっくりとした不規則な呼吸が見られることがあります。その場合は呼吸なしと判断します。

4 普段通りの呼吸がなかったら、すぐに胸骨圧迫を行う

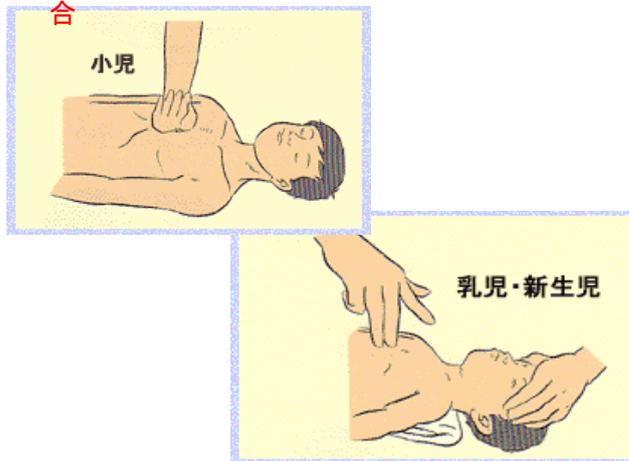


5 胸骨圧迫の強さと速さ

※胸骨圧迫

対象	圧迫の方法	方法	圧迫の早さ	圧迫の深さ
成人 (15歳以上)	胸の真ん中 (左右の真ん中で、かつ、上下の真ん中)	腕2本: 一方の手のひらの基部をあて、その手の上にもう一方の手を重ねる	少なくとも 100回/分の速さ	胸が少なくとも5cm沈むまでしっかり圧迫する
小児 (1~15歳未満、中学生までが目安)		腕2本: 一方の手のひらの基部をあて、その手の上にもう一方の手を重ねる 体格に応じて片手で行う		少なくとも胸の厚さ1/3までしっかり圧迫する
乳児 (1歳未満)		手指2本を用いる		

※胸骨圧迫小児(必要に応じて)・乳児の場合



ポイント

- 長時間実施する際は、非常に体力が必要になりますので、もし、救助者が二人以上いる場合は、2分間(5サイクル)程度を目安に交代して、絶え間なく続けることが大切です。
- 傷病者が普段どおりの呼吸を始める、あるいは目的のある仕草が認められるまで、あきらめず心肺蘇生法を続けてください。普段どおりの呼吸がみられなくなった場合は、ただちに心肺蘇生法を再開します。

5 胸骨圧迫の後、人工呼吸を2回行う

約1秒かけて、胸の上がりが見える程度の量を、2回吹き込みます。



人工呼吸2回

★人工呼吸

- ・ 口対口で鼻をつまみながら息を吹き込む
- ・ 胸が上がる程度
- ・ 1回約1秒かけて
- ・ 2回続けて試みる
- ・ 10秒以上かかない

※上手く行かない場合でも、人工呼吸は2回まで

30回(胸骨圧迫):2回(人工呼吸)をAEがくるまで繰り返す

口対口の人工呼吸がためられる場合
血液や嘔吐物などにより感染危険がある場合



人工呼吸を行わず、胸骨圧迫を続けます

6 AEDの装着



電極パッドを貼る位置は電極パッドに書かれた絵のとおり、皮膚にしっかりと貼ります。体が汗などで濡れていたら、タオル等で拭き取ってください。

※およそ6歳ぐらまでは、小児用電極パッドを貼ります。小児用の電極パッドがなければ、成人用の電極パッドを代用します。

7 電気ショックの必要性はAEDが判断し、必要がある場合は電気ショックを行う



心電図解析中は、傷病者に触れてはいけません。

8 ショックボタンを押す

誰も傷病者に触れていないことを確認したら、点滅しているショックボタンを押します。

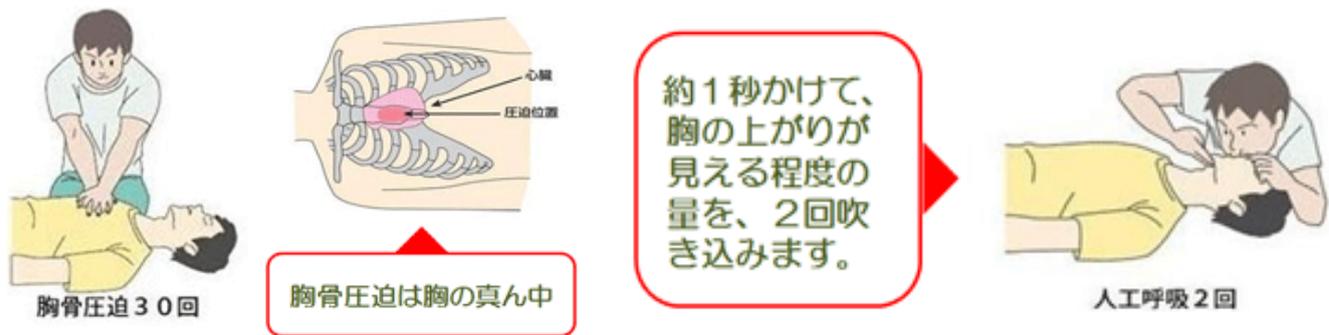


ショックボタン

以後は、AEDの音声メッセージに従います。

心肺蘇生とAEDの手順は、救急隊に引き継ぐか、何らかの応答や目的のあるしぐさ(例えば、嫌がるなどの体動)が出現したり、普段通りの呼吸が出現するまで続けます。

9 心肺蘇生法を継続する



30回(胸骨圧迫):2回(人工呼吸)を救急隊がくるまで繰り返す

30回(胸骨圧迫):2回(人工呼吸)は全年齢共通です

●到着した救急隊に情報を伝える

※到着した救急隊員に引き継ぐまでは、電極パッドをはがさずAEDの電源も入れたままにしておきます。

※救急隊が到着したら、倒れていた状況、実施した応急手当、AEDによる除細動を加えた回数などを伝えます。